

第4学年 国語科学習指導案

日 時 平成20年9月30日(火)6校時
児 童 4年生 15名
指導者 松田 博史

- 1 単元名 場面をくらべて読もう
教材名 一つの花

2 単元について

(1) 教材について

第3学年及び第4学年の「C読むこと」の目標は「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる」ことである。

本単元で育てたい主となる能力は、「ウ. 場面の移り変わりや情景を、叙述を基に想像しながら読むこと」及び「エ. 読み取った内容について自分の考えをまとめ、一人一人の感じ方について違いがあることに気付くこと」である。そこで、本教材の学習を通して、「キーワードに気をつける読み方を知り、場面意識をもって登場人物の様子や気持ちを読み取って、戦時の親子を描いた作品世界に迫る」を目標としている。

本教材は、主人公「ゆみ子」とその両親の戦中から戦後までの様子を描いた物語であり、家族愛と平和への願いが主題になっている。繰り返し出てくる言葉「一つだけ」や比喩表現、ダッシュなどに着目しながら読み取りを進めていくことで、物語の作品世界に迫っていくことができると思われる。また、物語の前半は戦中、後半は戦後という構成になっており、前半場面と後半場면을対比的に読むことによって、戦争と平和それぞれがもたらすものをとらえることができると考えられる。

(2) 児童について

児童は1学期、「三つのお願い」で、場面の違いに気をつけながら文章を読み取ったり、登場人物の様子がわかるように音読したりしている。また、「白いぼうし」では、全体を四つの場面に分け、場面ごとに課題をたて、叙述に即して文章を読み取る学習をしている。これらの学習を通して、場面の様子や登場人物の気持ちなどを想像しながら読んだり、感想を自分の言葉で書いたりする経験をしている。しかし、文章中の言葉一つ一つに着目し、より深い読み取りができる児童は少なく、文章を直感的に読んでしまう児童もいる。また、自分の考えを発表することを苦手とする児童や、自分の考えの根拠をうまく説明できない児童も少なくない。

これまでの学習で、重要語句にサイドラインを引いたり、自分の考えや登場人物の気持ちを書き込みしたりするを行ってきた。児童は、自分の考えを書こうとする意欲は高まってきているが、読み取ったことを自分なりの言葉で表現したり、大切な言葉を自分で見つけたりする力は十分とはいえない。

3年生時に実施したCRTの「読む能力」の得点率は64.3%となっており、特に「文章の特徴に注意して読むこと」の力が劣っている。また、読解力事前テストでは平均69.6点で、ミシンの音の変化が何を表しているのかを答える問題や、前後の内容から指示語を選ぶ問題において、特に正答率が低かった。

(3) 指導にあたって

本教材は3つの場面から構成されているが、指導にあたっては、第二場面を3つに分けて全体を5つの場面とし、場面ごとに課題をたてて学習を進めていきたい。単元を通し、音読や書き込みなどをしながら、場面の様子について叙述に即して想像豊かに読み取らせていきたい。また、物語は戦争のことを扱った作品であることから、時代背景や当時の生活の様子、難語句等について十分に説明をしながら学習を進めるようにしていきたいと考える。

「つかむ・見通す」段階では、会話文や「一つ」などの言葉を手がかりに、印象に残った場面や疑問に思ったことなどを感想として書き、交流し合うことで物語の世界に興味を持たせたい。

「深める」段階では、場面ごとにゆみ子の両親の言動等に注目させ、その行動や会話の背景、意図を想像させながら読み取らせたい。その際、場面ごとの課題に沿った視点でサイドラインを引いて書き込みをしたり、自分の考えをノートに書いたりする活動を取り入れるようにする。また、文中で繰り返し使われる「一つ」という言葉は物語の中で最も重要なキーワードであることから、それぞれの場面でどんな意味を持っているのかを考えながら読み進めさせたい。さらに「一つ」が使われていない戦後の場面と比較させて読ませることで、作品を通して作者の伝えたかったことに迫れるのではないかと考える。

「まとめる」「広げる」段階では、自分の読みの深まりを確認しながら「ゆみ子」に手紙を書くことで学習のまとめとする。友達同士で読み合う活動にも取り組ませ、自分と友達との感想の違いに気づかせたい。

3 単元の目標

【関心・意欲・態度】

- 戦争に関する物語を、人々の生活や考え方に興味を持って読もうとする。

【書くこと】

- 読み取ったことを生かして、「ゆみ子」にあてた手紙を書くことができる。

【読むこと】

- ◎ 登場人物の様子と場面の様子を、作品の中の大事な言葉に気をつけて想像しながら読むことができる。
- 題名にこめられた作者の思いについて自分なりの考えをもち、友達の考えと比べることができる。

【言語事項】

- 語句の意味を理解し、文末表現、指示語、ダッシュなどの働きについて理解を深めることができる。

4 単元の指導計画（全10時間）

段階	時	学習活動	具体的評価規準	努力を要する児童への支援
つかむ・見通す	1	教材文を読んで初発の感想を持つとともに、新出漢字を確認して難語句の意味調べをする。 ◇感想	関：物語の世界に興味を持ち、意欲的に感想を書いている。	「一つの花」の登場人物を確認しながら、感想を持たせる。
	2	場面分けをし、学習課題を立て、今後の学習の見通しを持つ。 ◇小見出し	読・言：場面構成を理解し、学習の見通しを立てている。	場面ごとに大事なことを確認しながら読ませる。

深める 6	3	戦中の暮らしの様子を読み取る。 ◇サイドライン ◇自分の考え	読・言：戦中についての叙述を基に、当時の生活の様子を想像しながら読むことができる。	現代生活との違いに着目させて読ませる。
	4	「一つだけちょうだい。」がゆみ子の口ぐせになった様子を読み取る。 ◇サイドライン ◇視写 ◇書き込み	読・言：母の行動についての叙述を基に、「一つだけ」がゆみ子の口ぐせになったわけを捉えることができる。	食料が少ない状況を説明し、母の会話文に着目させて読ませる。
	5	高い高いするお父さんのゆみ子への思いを読み取る。 ◇サイドライン ◇書き込み	読・言：両親の会話や行動についての叙述を基に「一つだけ」の意味を考えながらゆみ子の将来を案じる父の思いを考えることができる。	「深いため息」という叙述に着目させるとともに、親子の状況をおさえさせる。
	6	戦争に行く父と見送る母子の様子を読み取る。 ◇サイドライン ◇書き込み	話・言：母の行動についての叙述を基に、父にゆみ子の泣き顔を見せまいとする母の思いを考えることができる。	出征することの意味を説明し、家族の別れの日であることをおさえさせる。
	7	一つの花にこめられた父のゆみ子への思いを読み取る。 ◇サイドライン ◇書き込み	話・言：父の言動についての叙述を基に、「一つだけ」の意味を考えながらコスモスに託した父の思いを考えることができる。	読み取ってきたことを振り返らせ、ゆみ子が父に受けていた愛情を思い起こさせる。
	8 本時	十年後のゆみ子と母の生活の様子を読み取る。 ◇サイドライン ◇自分の考え	話・言：十年後のゆみ子とゆみ子を取り巻く状況の変化を戦中と比べながら読み、自分の考えをもつことができる。	ゆみ子やゆみ子の暮らしぶりについて、板書等を活用しながら戦中と戦後の違いを捉えさせる。
	まとめる 1	ゆみ子への手紙を書く。 ◇手紙	関：場面の移り変わりや題名にこめられた作者の思いに気をつけながら作品全体を読み返し、手紙の形式で感想を書こうとしている。	それぞれの場面の読みを想起させる。
	広げる 1	手紙を読み合い、心に残ったことをまとめる。 ◇感想カード	言：伝えたい中心をはっきりさせて友達への感想カードを書いている。	自分の手紙との違いはどこか、友達にどんなことを伝えたいかを確認しながら書かせる。

5 本時の指導

(1) 本時の目標

【関心・意欲・態度】

- 十年後のゆみ子とゆみ子を取り巻く状況の変化を進んで読み取ろうとしている。

【読むこと】

- ◎ 十年後のゆみ子とゆみ子を取り巻く状況の変化を戦中と比べながら読み、自分の考えをもつことができる。

(2) 本時の書く活動

本時はまず、前時までの戦中のゆみ子やゆみ子を取り巻く状況から、第三場面の十年後に変化している部分を見つけさせ、教科書にサイドラインを引かせる。戦中の場面と戦後の場面を対比して読ませることで、物語の内容をより深く読み取らせることができると考える。

その後、十年後のゆみ子について自分はどう感じるかをノートに記述させる。読み取ったことをもとに自分の考えを書くこと、さらにそれを友達と交流することにより、作品の主題により迫ることができると思う。

(3) 本時の展開

◇書く活動 ◎主となる「書く活動」に関わる部分 ☆支援 ○評価

段階	学習活動	教師の発問と指示	予想される反応	評価と支援
つかむ 5分	1. 前時の学習を想起する。 2. 学習課題をつかむ。 十年後のゆみ子の様子を読み取ろう。	・ 2の場面でお父さんはどんな思いでゆみ子にコスモスをあげましたか。	・ 健康で元気な子、母を大切に作るやさしい子に育ててほしいという思い。	☆教室掲示を見ながら2の場面を想起させる。
見通す 3分	3. 学習の見通しを持つ。	・ 3の場面の小見出しは何でしたか。 ・ 十年後、戦争は終わっています。戦争中と戦争後のゆみ子の暮らしを比べながら読み取っていきましょう。	・ いっぱいのコスモスの中でくらしているゆみ子。	☆大きく時代が変わり、十年後は戦争が終わっていることをおさえる。
深める 30分	4. 学習場面の音読をする。 ・ 個人読み ・ 指名読み 5. 第三場面を読み取る。 ◇サイドライン ◇戦中と戦後を対比させてまとめる	・ 十年前と変わっているところに気をつけながら音読しましょう。 ◎戦争中と比べて、戦争後変わっているところにサイドラインを引きましょう。 ◎ノートに書きまとめましょう。	・ コスモスがいっぱい。 ⇔コスモスが一つ。 ・ お父さんがいない。 ⇔お父さんがいる。 ・ 食べ物が多い。 ⇔食べ物が少ない。 ・ ゆみ子が成長している。 ⇔ゆみ子が幼い。 ・ 楽しそうな暮らし。 ⇔つらそうな暮らし。	☆変化を見つけられない児童には、コスモスや食料等視点を与える。 ○必要な部分を見つけ、線を引けたか。(サイドライン)

<p>深める 30分</p>	<p>◇自分の考えを書く</p> <p>・考えの交流</p>	<p>◎十年後のゆみ子についてどう思いますか。自分の考えを書きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・トンネルになるほどたくさんのコスモスに包まれてくらしについて、お父さんが喜んでいられるかもしれない。 ・肉か魚か選ぶことができるくらい食べ物が多いから、十年前より楽しい生活だ。 ・スキップして買い物に行くことができ、楽しそう。 ・お母さんの食べたい物を作ってあげられるくらいゆみ子は成長した。 ・お父さんが戦争から帰ってこなくてかわいそうだ。 	<p>○読み取ったことをもとに自分の考えを書けたか。 (ノート)</p>
<p>まとめる 7分</p>	<p>6. 課題のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>十年後のゆみ子は、多くのコスモスに包まれて暮している。お父さんがいなくても、お母さんと二人で幸せにくらしについてよかった。</p> </div> <p>・一斉読み</p> <p>7. 学習を振り返る。 ・自己評価</p> <p>8. 次時の学習を知る。</p>	<p>・3の場面をまとめましょう。</p> <p>・場面の様子を思い浮かべながら音読しましょう。</p> <p>・次の時間は、ゆみ子に手紙を書きます。</p>		<p>☆何名かの発表をもとに、全体のまとめをする。</p>

(4) 本時の評価

【読むこと】

- 十年後のゆみ子とゆみ子を取り巻く状況の変化を戦中と比べながら読み、自分の考えをもつことができたか。(観察、ノート)

A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する児童への支援
<p>十年後のゆみ子とゆみ子を取り巻く状況の変化を戦中と比べながら読み、平和の中を生きるゆみ子の様子を父母の思いと関わらせながら自分の考えを書きまとめている。</p>	<p>十年後のゆみ子とゆみ子を取り巻く状況の変化を戦中と比べながら読み、自分の考えを書きまとめている。</p>	<p>自分の考えをもてない児童には、板書等で戦中と戦後の違いを捉えさせるとともに、この場面を読んでみての感想を考えて書かせる。</p>

(5) 板書計画

場面をくらべて読もう

一つの花 今西 祐行

十年後のゆみ子の様子を読み取ろう。

	十年後（戦争後）	十年前（戦争中）
いっぱい トンネル	コスモス	一つ 一輪
いない	お父さん	いる
お肉とお魚	食べ物	おいも 豆 かぼちゃ
スキップ	ゆみ子	「一つだけちょうだい。」 高い高い、おんぶ
小さなお母さん		

・（児童の書いた考え）

十年後のゆみ子は、多くのコスモスに包まれてお母さんとくらしている。お父さんがいなくても、明るく元気に成長していてよかった。

場面	あらすじ	教材文	指導事項	言語事項
②	<p>戦争に行く父を見送りに行く母とゆみ子。</p> <p>おにぎりをねだるゆみ子を、母は泣かせまいとする。父は戦争に行く人ではないかのように。</p> <p>「学習課題例」 お母さんがゆみ子におにぎりをみんなあげたのはなぜか。</p> <p>「まとめ例」 戦争に行くお父さんに心配をかけたくない、ゆみ子の泣き顔を見せたくないから。</p>	<p>それから間もなく、あまりじょうぶでないゆみ子のお父さんも、戦争に行かなければならない日がやってきました。</p> <p>お父さんが戦争に行く日、ゆみ子は、お母さんにおぶわれて、遠い汽車の駅まで送っていきました。頭には、お母さんが作ってくれた、わた入れの防空頭巾をかぶっていました。</p> <p>おかあさんのかたにかかっているかばんには、包帯、お菓、配給のきつぷ、そして、大事なお米で作ったおにぎりが入っていました。</p> <p>ゆみ子は、おにぎりが入っているのをちゃあんと知っていましたので、</p> <p>「一つだけちょうだい、おじぎり、一つだけちょうだい。」</p> <p>と言って、駅に着くまでにみんな食べてしまいました。お母さんは、戦争に行くお父さんに、ゆみ子の泣き顔を見せたくなかつたのでしようか。</p> <p>駅には、ほかに戦争に行く人があって、人ごみの中から、ときどきばんざいの声が起りました。また、別の方からは、たえず勇ましい軍歌が聞こえてきました。</p> <p>ゆみ子とお母さんのほかに見送りのないお父さんは、プラットホームのはしの方で、ゆみ子をだいて、そんなばんざいや軍歌の声に合わせて、小さくばんざいをしていたり、歌を歌っていたりしていました。まるで、戦争になんか行く人ではないかのように。</p>	<p>(事) 丈夫でない父が戦争に行かなければならない</p> <p>(事) 見送りに行く母とゆみ子</p> <p>(想) 父のためのおにぎり</p> <p>(事) おにぎりをすべて食べてしまった</p> <p>(想) (書) 泣き顔を見せたくない母の気持ち</p> <p>(事) 対比 人ごみ ばんざいの声 勇ましい軍歌</p> <p>ゆみ子と母しか見送りがいない 小さくばんざい 歌を歌って</p>	<p>おぶわれて 防空頭巾 配給きつぷ くでしようか 人ごみ ばんざい たえず 勇ましい 軍歌 プラットホーム はし まるでくのよ うに</p>
③	<p>「一つだけ。」と泣き出したゆみ子に、父は一輪のコスモスを与える。喜ぶゆみ子の握ったコスモスを見つめながら、父は出征していく。</p> <p>「学習課題例」 お父さんはどんな思いで汽車に乗って行ったのか。</p> <p>「まとめ例」 「一つだけちょうだい」としか言えないゆみ子が心配だが、元気に、幸せに育ってほしい子になってほしいと思っている。</p>	<p>ところが、いよいよ汽車が入ってくるようになって、またゆみ子の「一つだけちょうだい。」が始まったのです。</p> <p>「みんなおやりよ、母さん。おにぎりを——。」 お父さんが言いました。</p> <p>「ええ、もう食べちゃったんですの——。ゆみちゃん、いいわねえ。お父ちゃん、兵隊ちゃんになるんだって。ばんざあいって——。」</p> <p>お母さんは、そう言ってゆみ子をあやしましたが、とうとう泣きだしてしまいました。</p> <p>「一つだけ。一つだけ。」 と言って。</p> <p>お母さんが、ゆみ子を一生けん命あやしているうちに、お父さんが、ぶいといなくなってしまうした。</p> <p>お父さんは、プラットホームのはしつぼの、ごみすて場のような所に、わすれられたようにさいていたコスモスの花を見つけたのです。あわてて帰ってきたお父さんの手には、一輪のコスモスの花がありました。</p> <p>「ゆみ。さあ、一つだけあげよう。一つだけのお花大事にするんだよう——。」</p> <p>ゆみ子は、お父さんに花をもらうと、キャツキャツと足をばたつかせて喜びました。</p> <p>お父さんは、それを見てにつこり笑うと、何も言わずに、汽車に乗って行ってしまいました。ゆみ子のにぎっている、一つの花を見つめながら——。</p>	<p>(事) 汽車が入ってくる</p> <p>↓別れが近づく</p> <p>(事) 父 「みんなおやりよ」</p> <p>(事) ゆみ子 泣き出してしま う</p> <p>(事) 父 ぶいといなくな る。あわてて帰 ってくる。</p> <p>(事) 一つの花 コスモスの花 一輪のコスモ スの花</p> <p>一つだけの花 (想) (書) 「大 事にするんだよ う——」に込めた 父の願い</p>	<p>いよいよと きになつて 兵隊 あやす はしつぼ 一輪 —— (ダッシ ユ)</p>

場面	三
あらすじ	<p>十年後、母とゆみ子は、いっぱいのコスモスに包まれて暮らしている。ゆみ子は、お昼を作るため、買い物に出かけて行く。「学習課題例」十年後のゆみ子の様子を読み取ろう。「まとめ例」多くのコスモスに包まれ、お父さんがいなくともお母さんと二人で幸せに暮らしている。</p>
教材文	<p>それから、十年の年月がすぎました。<u>ゆみ子は、お父さんの顔を覚えていません。自分にお父さんがあったことも、あるいは知らないのかもしれない。</u>でも、今、ゆみ子のとんとんぶぎの小さな家は、<u>コスモスの花でいっぱい</u>に包まれています。<u>そこから、ミシンの音が、たえず速くなったり、おそくなったり、まるで、何かお話をしているかのよう</u>に、<u>聞こえてきます。</u>それは、あのお母さんでしょうか。「お母さん、お肉とお魚とどっちがいいの。」と、ゆみ子の高い声が、コスモスの中から聞こえてきました。すると、ミシンの音がしばらくやみました。やがて、ミシンの音がまたいそがしく始まったとき、<u>買い物かごをさげたゆみ子が、スキップをしながら、コスモスのトンネルをくぐって出てきました。</u>そして、町の方へ行きました。<u>今日は日曜日、ゆみ子が、小さなお母さんになって、お昼を作る日です。</u></p>
指導事項	<p>(想) 父はどうなったのか (事) 対比 一輪のコスモス ⇔ コスモスの花でいっぱい (事) ゆみ子の成長 ・高い声 ・スキップ ・小さなお母さん</p>
言語事項	<p>あるいはうれれません とんとんぶぎ まるでくのよ うに くでしょうか</p> <p>コスモスのトンネル</p>